

「水 1 本」の効果

ミネラルウォーターの仕事に従事して、この11月で14年目になる。

お陰様で、全く無関心だった健康について考え始め、「単なる水」から様々な**健康体感**を持つようになった。

今回の「ご存じですかシリーズ」は、……これも体感の結果だと、敢えて言えば言えなくも無いが、全く別の観点から、「水の効用」について書いて見たい。

商売柄、水は車に常に積んである。

あるとき知り合いに、頼み事を引き受けてくれたお礼に、500ml (ペットボトル) 1本を、プレゼントしたことがある。

予期もしない形で受け取った、この知り合いは、たった一本の水に、「にこっ」として、とても嬉しそうな顔を見せたのだ。

この事が切っ掛けで、何となく「気遣いの心」を表したいとき、……例えば、アポイントメントを取って戴いた秘書さんに、例えば、野暮用を引き受けてくれた後輩に、例えば、熱心に診察してくれた病院の先生に、など、……500mlの水、1本の仲介で、「にこっ」とされ、場が和(なご)むのである。

と、水には、……水にしか無し得ない、このような素晴らしい側面があるのである。

ではなぜ、「水」だけの効用なのか、……もっと「体にいい」とされるものでは、ダメなのか。

それが、「水」でなければダメなのである。

* 第一に水は、値踏みが容易に計れる……まあ、水程度なら貰ってもいいか/お返し義務感が生じない

* 第二に水は、保存が効く……直ぐさま処分しなくてもいいから、急(せ)く気持ちが生じない

* 第三に水は、たとえ貰った品でも、他の人に気楽に差し上げられる……そう言えばあいつ(身内含)

「水」が好きだったよなと

そして何よりも、ここが最も重要で、

* 「単なる水」は、絶対にアレルギー反応を起こさない……言うならば「好き、嫌い」の概念が入り込まず、誰もが受け入れられる唯一の飲食物である。仮に反応を起こしたら、その人は生きては行けない

水1本で商売に繋(つな)がる実利は何も起きないが、「心の和み剤(なごみざい)」とでも言える、そんな人間的な潤滑油にはなれるのである。

水に取って代わる飲料は何も無いが、水はあらゆる飲料をカバーする(3.11の東日本大震災の例)。

それどころか心の潤滑油として、「油」の代りにもなるのである。

★健康体質作りに向けて ☞ 「飲むなら水を」の生活習慣を提唱します

①水道水で構いません

②塩素が気になるなら、「ミネラルウォーター/出来たら硬度100以内」をご利用下さい

③吸収性に優れた、マイクロスター水「ファインアクア」なら申し分ございません

ウォーターセラピスト 勝俣敏彦